様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

平成 ２６ 年　 ５ 月 ２６ 日現在

機関番号：２３８０４
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2011～2013
課題番号：２３５２０３９１

研究課題名（和文）フランス語マグレブ文学における都市パリの表象

研究課題名（英文）Representation of the City of Paris in the Maghrebian Literature in French

研究代表者
石川　清子（ISHIKAWA, Kiyoko）

静岡文化芸術大学・人文・社会学部・教授

研究者番号：３０３２９５２８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　1,800,000円、（間接経費）　540,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究はフランス語で書かれたマグレブ（北アフリカ地域）の現代小説において、パリがいかに表象されているかを考察し分析することを主眼とした。異邦人として、植民支配を受けた出自をもつ者として、当該地で生まれた移民次世代のフランス人として、マグレブに出自をもつフランス語表現作家たちが伝統的文学トポスであるフランスの首都をいかに表象するか。いくつかのカテゴリーに分けつつ同時に共通性を確認して収集した文献を分類、統合しながら論文や抄訳にまとめ、その成果を国際会議にて発表した。その主たる題材として、アルジェリア出身女性作家、アシア・ジェバールとレイラ・セバールの代表的小説を取り上げた。

研究成果の概要（英文）：This study aims the comprehension of the representation of the city of Paris in contemporary Maghrebian literature in French. Through some articles and partial translation of this literature, two female writers, Assia Djebar and Leila Sebbar, are mainly examined from the viewpoint of the dialogue between literature and painting, Algeria and France. We made a precise categorization and integration of the capital of France represented in this literature through the novels from the 1950s up to the present times passing through especially Algerian War (1954-1962). Some parts of result obtained in this research were read in international conferences held in Algeria and in France.

研究分野：文学

科研費の分科・細目：ヨーロッパ文学

キーワード：パリ　マグレブ　小説　移民　女性　郊外　アシア・ジェバール　レイラ・セバール

１．研究開始当初の背景

（１）　近年、フランス文学の枠組が「フランス語圏文学」として捉え直され、フランス語を母語としない亡命者や旧植民地出身の作家、さらにはその次世代の作家の作品がフランス語の文学の層を豊かにしているのは紛れもない。マグレブ（北アフリカ諸国）を出自とする作家の作品群はそのなかの重要な発信源の一つである。研究代表者はこれまで、モロッコ、アルジェリアの現代仏語表現の小説考察を通じて、当該文学の大まかな潮流を把握してきた。

（２）本文学のテーマは多様であるが、着目したい点は、時代の流れとともに小説の舞台がマグレブ本土からフランスへ移っていることである。これは作家たちの母国からフランスへの移動、そしてマグレブ出身の人々が移民労働者として渡仏、そして滞在者となる過程と重複する。マグレブ仏語文学とは植民地支配とその後の歴史に連動する「移動」の文学と言える。当該文学作品群（主に小説）で描かれる移動先が大都市、とりわけ首都パリとその周辺であることは、現在、労働者とその家族、留学生が住むマグレブ系住民の多さ、そして文学都市パリが作家にとって魅力であることを語る。「パリ」をテーマに本文学を考察することに着目した。

２．研究の目的

以上を鑑みて、都市を見るまなざしという文学的トポスを通して、フランス語マグレブ文学全体を概観しつつその多様性を引き出し、同時にこの文学がフランス文学本流といかに切断し、かつ接続するかを確認する。また、作家及びその登場人物の出身・世代・ジェンダー等に焦点を当て、社会学的視点を考慮しながら、フランスにおけるマグレブ系の人々の異文化体験と表現の諸相を通史的に俯瞰する。日本における本文学研究の層を厚くすることにも貢献し、同時に国外への発信を試みる。

３．研究の方法

（１）一次資料、二次資料の文献収集と文献整理（ビブリオグラフィーの整備）を行いつつ資料を読み込む。

その際、時代を以下のとおり世代別に分類した。

- 第一世代：M.ハダッド、M.フェラウン、M.ディブ
- 現在活躍中の重鎮クラス：R.ブージェドラ、T.ベン・ジェルーン、A.ジェバール、L.セバール
- 移民第二世代、いわゆる「ブール」の書き手：T.イマッシュ、M.シャレッフ、A.タジェール、A.ジェマイ、Y.ベンギギ
- さらなる若い世代：D.ケルシュッシュ、F.ゲーヌ、M.ラザーヌ

また、次の項目をラベルの基準として、作品分析しながら通史的に概観する。

a) 移民労働者の見るパリと異文化体験
b) 学生の見る文化の中心である憧れの首都
c) 単身者の孤独と悲惨
d) アルジェリア独立戦争時の連帯の場／1961 年 10 月 17 日の惨劇の場としてのパリ
e) 呼び寄せ家族とスラム街
f) 移民第二世代と郊外
g) 家出娘のパリ
h) ラップ、ライ、ヒップホップ：移民系若者とサブカルチャーの都市
i) グットドール、バルベス：パリのなかのマグレブ
j) 全体の俯瞰：「パリ」というテーマから見たマグレブ仏語文学

（２）以上の分類を意識したうえで、これまで特に力点を置いて読んで二人のアルジェリア出身女性作家であるアシア・ジェバール、レイラ・セバールに軸足を置いて以下の作業を進める。

① 論文執筆
② 作家とのコンタクト
③ 国内外学会発表
④ ③に伴う海外研究者との連携
⑤ 翻訳
⑥ 国内での研究者相互の連絡網の確立

４．研究成果

（１）３.で提示した作家リストの主要作品のアクセス、収集ができた。同時に入手不能の版も数多く、フランス国立図書館での閲覧をはじめ、ウェブ上での古書サイトが助けとなった。日本においても同様だが、文学作品の再版は稀で時間が経つと入手が困難になる。一方、二次資料としての作品に関連する記事や論文は、やはりウェブでの入手、図書館の複写サービスをとおして予想以上に入手ができた。しかしマグレブ本国での出版物は手に入らないケースが多い。以上の結果、ａ）から ｉ）まで作品群をマッピングし、「都市パリ」という見地からマグレブ仏語現代小説を概観することができた。

（２）３.（２）の分類順に挙げていく。

① レイラ・セバール初期代表作のシェラザード三部作について美術作品との対話という視点から論文を書き、その中でオリエンタリズム絵画と美術館から見るパリという視点から三作品を考察した。勤務校所属学科刊行書籍に、マグレブ文学と植民支配をテーマにした論考、国際文化学に関わる研究ノートを執筆。他に、B.ストラのアルジェリア史大著の書評、学会発表原稿

を充実させた報告（ジェバール）、作品紹介（セバール）、抄訳（セバール）など。

パリというテーマは以上の論考において中心的位置から外れる場合もあるが、マグレブ仏語文学を考察する際に外せないアルジェリア戦争という大テーマ、パリ及びその近郊を舞台と刷るマグレブ移民と次世代のとりわけ女性の生きざまのクローズアップ、日本における翻訳作品の必要性を意識することができた。

② 2011 年 8 月、申請者が翻訳を手がけたアシア・ジェバールと面談する機会を得た。また、パリとオラン近郊を拠点に活動するマイッサ・ベイとコンタクトを取り、自身が行うアルジェリアでの出版活動について知ることができた。

③ 本研究で最も成果をあげられた領域であると考える。2011 年、シンポジウム発表で初めてアルジェリアに行くことができたうえに、毎年アルジェリアの国際シンポジウムに発表参加できた。特に 2013 年 11 月、ティジウズでのジェバール・シンポジウムはアルジェリア初の当該作家シンポであり、その共同運営委員となった。直接現地へ行くことで当地の出版流通状況が分かり、流通の悪さ（書店運営の困難、ネット書店の利用不可、書籍の入手困難など）を実感した。マグレブ在住作家を囲む状況を理解する良い機会であった。

国内では日本フランス文学会のワークショップ等でのアルジェリア戦争と文学の関わり、女性作家を中心に現代アルジェリア文学を紹介する機会を得た。所属する研究会でのシンポジウム、定例会での発表で、アルジェリア仏語文学の祖ムールード・フェラウン、移民第二世代の女性作家・映画監督ヤミナ・ベンギギの表現活動に触れ、研究のテーマを広げることができた。セバールによるフェラウンのパリでの足跡をたどる試みから、マグレブ移民労働者にとってのバルベスという地域の特殊性、神話性（上記 i）を後続のジェマイなどに接続することができた。これは上記 h)の第二世代によるサブカルチャーへの発展とも関わる。ベンギギの映画作品からフランス及びパリ郊外の移民労働者の家族、とりわけ妻たちについての年代記作成という側面からセバールらとの類似性が指摘できる。

異なる発表テーマのアプローチから、本文学における移民、女性という鍵語の重要性を認識した。

④ 研究開始初年度にパリ近郊を拠点に活動するアシア・ジェバール研究会主宰者と連携する機会を得て、邦訳について発表。それをもとに論文執筆し、共著書籍として出版。学術研究から少し距離を置いた作家研究の新たなスタイルを知るとともに、研究の多様性について知見を得た。フランスをはじめとするヨーロッパ、マグレブ本国、合衆国での研究者と情報交換を行う機会を保持できる。ジェバールをはじめ、本文学が世界各地でどのように研究され、どのように社会に伝播され共有されるか、そこから逆に、日本での研究の現状を認識できる。

⑤ セバールの代表作『シェラザード、十七歳、髪は褐色の巻毛、眼は緑色』(1982)の冒頭部の抄訳。移民第二世代の女子とパリという本研究の中心部を翻訳と解題で紹介できた。マグレブ文学とは離れるがレーモン・クノーの 19 世紀末パリを舞台にした 1969 年小説翻訳。マグレブ系労働者のフランス移住が始まり、また仏全体の価値体系が大きく揺らいだ 60 年代後期という特別な時期と小説というジャンルの問題提起という点で、現代フランス文学全体を俯瞰するきっかけとなった。換言すれば、フランス文学という本筋のなかで傍系ととらえらうるマグレブの仏語小説をどのように位置づけるかということが認識できる。

⑥ 2011年12月にアルジェリア仏語文学の祖と呼ばれるムルード・フェラウン記念シンポジウム開催をきっかけに、国内研究者のグループ、マグレブ文学研究会を起ち上げた。当該文学に関わる研究者ばかりでなく、マグレブ地域の人文系領域研究者、フランス文学研究、アラブ＝ベルベル文学研究関係者もかかえるグループである。年 2 回の定例会を軸に、今後、情報交換のみならず、国内外への発信、研究のさらなる充実を目標とする。

（３）以上を総括すると、アルジェリア出身のジェバールとセバールを中心に研究が進んだが、そこから今後の研究テーマとしてアルジェリア戦争、移民とその次世代以降、女性作家と女性たち、表現の越境（文学から映画へ、音楽・映画から文学へ）、サブカルチャーとの関連という側面が浮き彫りになった。マグレブ文学のなかでもアルジェリアに集中する、今後の研究の大きな課題と主題設定ができた。

５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計３件）

① Kiyoko Ishikawa, Lire Assia Djebar au Japon, El Khitab-revue scientifique semestrielle à comité de lecture-Langue et littérature-, 査読有,No16, 2013, 83-96

② 石川 清子、アルジェリア／フランス―『アルジェの女たち』をめぐる絵画と文学の対話―（Ⅱ）、静岡文化芸術大学研究紀要、査読無、13 巻、2013、1-12、http://id.nii.ac.jp/1132/00000633/

③ 石川清子、書評：バンジャマン・ストラ『アルジェリアの歴史』、Revue japonaise de didactique du français、

査読無、７巻２号、2012、127-128、

〔学会発表〕（計９件）

① 石川清子、ヤミナ・ベンギギ『インシャーアッラー日曜日』映画解説、中東現代文学研究会第 11 回例会、2013 年 1 月 11 日、東京外国語大学本郷サテライト

② 石川清子、アルジェリア現代仏文学の系譜―女性作家、アシア・ジェバールを中心に、日本アルジェリア協会招待講演、2013 年 11 月 19 日、在日アルジェリア大使館

③ Kiyoko Ishikawa,Lire et traduire Assia Djebar au Japon, Colloque international:l'Expérience créative d'Assia Djebar ou l'œuvre d'une vie, 2013 年 11 月 10 日,ムルード・マムリ大学（ティジ＝ウズ、アルジェリア）

④ 石川清子、レイラ・セバールとフェラウン–失われた「父の言葉」を求めて、ムールード・フェラウン没後 50 周年記念シンポジウム、2012 年 12 月 1 日、早稲田大学

⑤ 石川清子、ドラクロワ『アルジェの女たち』の変容–フランスからアルジェリアへ、筑波大学 ARENA 第 54 回定期セミナー、2012 年 10 月 18 日、筑波大学

⑥ Kiyoko Ishikawa, Quelques aspects du thème du "hammam" dans la littérature féminine de langue française au Maghreb, 2012 年 5 月 17 日、第 2 回アルジェリア–日本学術シンポジウム、オラン工科大学（オラン、アルジェリア）

⑦ Kiyoko Ishikawa, Traduction en japonais de *L'Amour, la fantasia* : son retentissement et son importance, Le Cercle des amis d'Assia Djebar,2011 年 9 月 16 日、Café le Contrescarpe （パリ、フランス）

⑧ 石川清子、アシア・ジェバール『愛、ファンタジア』を訳して、中東現代文学研究会定例会、2011 年 6 月 26 日、早稲田大学

⑨ 鵜飼哲、カトリーヌ・ブラン、石川清子、アルジェリア戦争と複数の文学、日本フランス語フランス文学会春季大会ワークショップ、2011 年 5 月 29 日、一橋大学

〔図書〕（計５件）

① TEN-BOOKS、TEN-BOOKS、『いま、世界で読まれている 105 冊　2013』、 2013、276p、石川清子「ファティマ、辻公園のアルジェリア女たち」、pp.188-190

② 中東現代文学研究会編、『中東現代文学選 2012』、2013、450p、石川清子「『シェラザード、十七歳、髪は褐色の巻毛、眼は緑色』抄訳と解題」pp.414-424

③ レーモン・クノー、石川清子訳、水声社、『イカロスの飛行』2013、202p

④ 静岡文化芸術大学文化政策学部国際文化学科、すずさわ書店、『国際文化学への第一歩』2013、440p、石川清子、pp.19-32、pp.323-329

⑤ Amel Chaouati, Kiyoko Ishikawa, Hibo Moumin Assoweh, Hervé Sanson, Wassyla Tamazali, La Cheminante,*Lire Assia Djebar!*, 2012, 222p, pp.98-114

６．研究組織

(1)研究代表者

石川 清子（ISHIKAWA, Kiyoko）

静岡文化芸術大学・文化政策学部・教授

研究者番号：３０３２９５２８

(2)研究分担者　なし

(3)連携研究者　なし